土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　査　名　一級河川　太田川水系　根谷川支川９　通常砂防事業に伴う業務委託

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象　砂防 砂防

ボーリング名	Bor.No.5	**調査位置**	広島県広島市安佐北区可部町上町屋　地内			**北緯**	34° 32′ 55.3125″
発注機関	広島県西部建設事務所			**調査期間**	2023年　5月 29日 ～ 2023年　6月　1日	**東経**	132° 31′ 51.1860″
調査業者名		**主任技師**		**現場代理人**		**コア鑑定者**	**ボーリング責任者**
孔口標高	T.P. 91.10m	**角度**	180° 上 90° 下 0° 0°	**方位**	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	**地盤勾配**	水平0° 鉛直 90° 0°
総削孔長	7.00m					**使用機種**	**試錐機**：東邦地下工機　D1-B48
							エンジン：ヤンマー　NFD-12　**ポンプ**：東邦地下工機　BG-3C

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記事	孔内水位／測定月日
	90.80	0.30		シルト質砂		暗褐			第四紀	表土に相当。砂は細砂主体。土壌成分に富んでいる。	05/30 0.71
1	89.75	1.35		礫混じり砂		暗灰褐	rd3			礫分はφ10～40mm程度。砂の粒度分布は悪くない。全体に少量の細粒分を伴い、まれに集中して混入する。1mの貫入試料は含水が高い。本層の成因は明確でない。	05/30 1.35
	89.10	2.00		砂礫		灰	rd3			礫分は中礫～細礫主体。大径のものはφ50mm～L=60mmで採取。マトリクスは粗中砂からなる。土石流堆積物に相当する。	05/31 1.76
2	88.20	2.90		礫混じり砂		褐灰	rd3			やや粒度変化に富んだ砂質層で、土石流堆積物に相当する。細礫およびφ30mm程度の粗礫を少量含む。全体にマサ土質である。2.55～2.75m間、不定形状に細粒分を伴う。	
3	87.45	3.65		砂礫		褐	rd5			不規則かつ雑多に礫分を混入するため堆積層と判断。礫分はφ30mm～L=35mmに達す。3m貫入試料は礫分に乏しく、N値が高い理由が判然としない。良く締まった土質にも見えない。ただし、風化岩の可能性はほぼないものと思われ、土石流堆積物に相当するものと判断した。	
4				風化花崗岩		白灰			白亜紀	岩組織はかなり明瞭で、風化岩で間違いない。コアはわずか～少しの固結度を残し、指圧で崩すには中程度以上の力を要す。はぐした試料は粗砂～細礫状を呈す。4.75m付近より固結度が増した感がある。4.9m付近には有色鉱物の濃集を認める。最終深度の貫入試料、粘土質で含水が高い。水ミチをなしている可能性がある。【DH級岩盤、軟岩Iに相当する】	
5											
6						灰褐					
7	84.10	7.00				白灰					
8											
9											
10											
11											

標準貫入試験

深度－N値図（0 10 20 30 40 50）

N値	深度 (m)	100mmごとの打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
16	1.15 / 1.45	5	6	5	16/300		
21	2.15 / 2.45	11	6	4	21/300		
54	3.15 / 3.43	17	18	15 / 80	50/280	280	
60	4.15 / 4.40	17	23	10 / 50	50/250	250	
115	5.05 / 5.18	34	16 / 30		50/130	130	
136	6.05 / 6.16	40	10 / 10		50/110	110	
136	7.05 / 7.16	40	10 / 10		50/110	110	

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法

室内試験：原位置試験

削孔月日：5/29　5/30　5/31